



様式第8号（第5条関係）

（その1）

平成31年 1月15日

十和田市議会議長

竹島勝昭様

会派名 自民公明クラブ

経理責任者 堰野端 展雄

平成30年度（4月～12月）政務活動費収支報告について

十和田市議会政務活動費の交付に関する条例第7条第1項の規定に基づき、別紙のとおり平成30年度（4月～12月）政務活動費収支報告書を提出します。

(その2)

平成30年度政務活動費収支報告書

会派名 自民公明クラブ

1 収 入

政務活動費 2,430,000円

2 支 出

(単位：円)

科 目	金 額	備 考
調査研究費	918,742	6/25~28 長野県山ノ内町、石川県金沢市、岐阜県岐阜市 長良川温泉泊覧会(行政視察)
研修費	162,000	7/17~18 林活議員連盟(平川市、弘前市)
広報費		
広聴費		
要請・陳情活動費		
会議費		
資料作成費		
資料購入費		
人件費		
事務所費		
合 計	1,080,742	

3 残 額 1,349,258円

(注) 備考欄には、主たる支出の内訳を記載する。

<平成30年度>
<4月~12月分>

政 務 活 動 費 使 用 状 況

自民公明クラブ

会 派 名	金 額	備 考	
収入	2,430,000	30,000円×9人×9カ月	
議 員 数	9		
支出			
調 査 研 究 費	918,742	6/25~28 長野県山ノ内町、石川県金沢市、岐阜県岐阜市(行政視察)	868,742
		長良川温泉泊覧会 視察代	50,000
研 修 費	162,000	7/17~18 林活議員連盟(平川市、弘前市)	162,000
広 報 費	0		
広 聴 費	0		
要請・陳情活動費	0		
会 議 費	0		
資 料 作 成 費	0		
資 料 購 入 費	0		
人 件 費	0		
事 務 所 費	0		
合 計	1,080,742		
残 額	1,349,258		

調 查 研 究 費

(注) 備考欄には、主たる支出の内訳を記載する。

(その3)

政務活動報告書

会派名	自民公明クラブ			
活動議員名 (取扱議員名)				
沢目正俊	織川貴司	小川洋平		
石橋義雄	堰野端展雄	江渡信貴		
斉藤重美	氣田量子			
区 分			合計金額	
① 調査研究費	2 研修費	3 広報費		4 広聴費
5 要請・陳情活動費	6 会議費	7 資料作成費	8 資料購入費	918,742 円
9 人件費	10 事務所費	※該当する区分に〇印		
期間 (年月日)	平成30年6月25日 ~ 6月28日 (3泊4日)			
支出目的 (支出理由)	6月25日 <長野県山ノ内町>志賀高原ユネスコエコパークの取り組み状況について 6月26日 <石川県金沢市>金沢21世紀美術館の取り組み状況について 6月27日 <岐阜県岐阜市 長良川温泉泊覧会実行委員会>体験プログラムの取り組み状況について			
用務先 (支払先)	長野県山ノ内町、石川県金沢市、岐阜県岐阜市 長良川温泉泊覧会実行委員会			
内容及び成果	別紙 視察報告書のとおり			

※領収書及び料金内訳書等の写しは裏面へ貼り付けしてください。

十和田市議会・自民公明クラブ行政視察報告書

日 時 平成 30 年 6 月 25 日

場 所 長野県山ノ内町

会派で志賀高原ユネスコエコパーク取り組みについて視察してきました。

志賀高原ユネスコエコパークの概要

構成町村は長野県側山ノ内町と高山村で、群馬県側は中之条町と草津町と嬭恋村です。構成エリアは上信越高原国立公園の志賀高原地域を中心としたエリアです。

志賀高原ユネスコエコパークの特徴として

● “火山と水と森”の資源に育まれたエリアとして草津白根山・亜高山帯針葉樹林・大小さまざまな池沼・湿原

● 保全すべき貴重な動植物としてシガアヤメ・ニホンカモシカ・ヒカリゴケ・石の湯ゲンジボタル

● 自然環境(資源)の利活用として観光産業への活用・農業への活用

● 地域住民等によるこれまでの取り組み

- ・ 入会慣行による野草山菜などの採取制限
- ・ 道路改良事業における環境保全対策
- ・ 漁業組合によるイワナ在来個体群の適正管理
- ・ 外来種の駆除活用
- ・ 温泉熱、雪氷熱利用などの再生可能エネルギーの活用など

拡張登録における町民の反応

● 志賀高原ユネスコエコパーク(BR)登録の経過

○ BR(ユネスコエコパーク)への登録

- ・ 1980年(昭和55年)に国主導により登録された。
- ・ 町民は一部の人しか知らされていなかった。

※ 約 30 年間、ほとんどの町民が、町がユネスコエコパークであることを知らなかった。

● なぜユネスコエコパークに登録されたのか？

○ 志賀高原の自然

○ 保全すべき貴重な動植物

○ 自然環境(資源)の管理と利活用

○ 地域住民の取り組み

※ ユネスコエコパークのための活動？

●拡張登録に係る町民の意識

○ユネスコエコパークに対する期待感

- ・世界遺産のように大きな観光客の入込が見込める
- ・世界が認めた地域で生産した農産物だからブランドになる
- ・よくわからないけど、すごいことだ

★一方で、制度の理解不足から・・・

- ・自分には関係ない
- ・志賀高原だけで自然を守っていけばいい

ユネスコエコパークの活用について

●そのメリットと事業を推進する意義

環境教育(活動)はユネスコエコパークでなくてもできるが・・・

未来のための取り組みが地域ブランドとして世界に認められる近道

地域全体の行動力、住みたいと思う気持ち、産業の価値など、全ての向上を目指す

●ユネスコエコパークを活用するために！①

ユネスコエコパークに対する認識と理解度の向上

ユネスコエコパークであることは知っているが・・・

ユネスコエコパークってなに？

世界自然遺産と同時に多くの人を訪れる？

実際に何をすればよいのか？

ユネスコから求められているものは？

●ユネスコエコパークを活用するために！②

自らの行動や活動を見つめ直す

当たり前のようにある自然が、行われている活動が、世界的に評価されている。

ユネスコエコパークの制度を理解して、自らの行動や活動が関連していることを理解する。

今ある資源(自然や活動)をどのようにユネスコエコパークに絡めて地域振興を繋げていけるかを考える

志賀高原ユネスコエコパークの活動

○保全機能に係る活動

- ・地域の共有地として管理
- ・森林再生に係る植樹活動
- ・植生を守るための環境保全活動

○学術的研究支援に係る活動

- ・環境学習プログラムの構築
- ・ユネスコスクールの登録と活動

- ・次世代を担う人材の育成

○地域と社会の発展に係る活動

- ・観光産業への活用
- ・農業への活用

まとめ①

ユネスコエコパークで大切なこと

- ・制度について理解する事
- ・地域の自然や資源を知る事
- ・地域や活動について埃を持つ事
- ・地域を担う人材育成

まとめ②

限りある環境・資源を後世に残すためのあらゆる取り組みの意味を理解する

ユネスコが認める自然環境、地域活動を守り、継続していく

様々な地域の資源や取り組みが、地域の付加価値となる

まとめ③

豊かな自然環境・資源・文化を活用した地域振興を図る

- ・どんな取り組みをしているのか、世界は私たちに常に注目している
 - ・未来に繋ぐどんな小さな取り組みも世界にとっては尊敬に値する取り組み
- 小さな取り組みが続けば続くほど地域の価値は向上する

十和田市には世界に誇れる十和田八幡平国立公園があり、私もここに生まれて良かったと持っています。

これで満足せず世界遺産登録をして世界に認められ観光客を呼び、十和田市をもっともっと元気にして、活性化になることを期待したいと感じました。

金沢 21 世紀美術館の運営状況について

金沢市は本州のほぼ中心に位置し、明治 22 年の至誠施行以来、近隣市町村との度重なる編入・合併によって市域を拡大し、平成 8 年に中核市に移行しました。雨の多い地域で、高い湿度は伝統工芸である漆塗りや金箔製品に適しています。

金沢は加賀藩前田家の城下町として栄え、加賀友禅や金沢箔、九谷焼などの伝統工芸や、能楽や加賀万歳などの伝統芸能が受け継がれてきました。戦災や大きな災害を免れたため、藩政時代からの美しいまちなみが現在も多く残っており金沢市の貴重な財産となっています。

その歴史ある金沢の中心部に、透明のガラスで囲まれた近代的な建造物、金沢 21 世紀美術館があります。北陸新幹線開業効果を活かした美術館運営について研修してまいりました。

伝統工芸が栄えた歴史がある金沢で、現代美術の美術館がどのように成立し、市民と共存してきたのか。

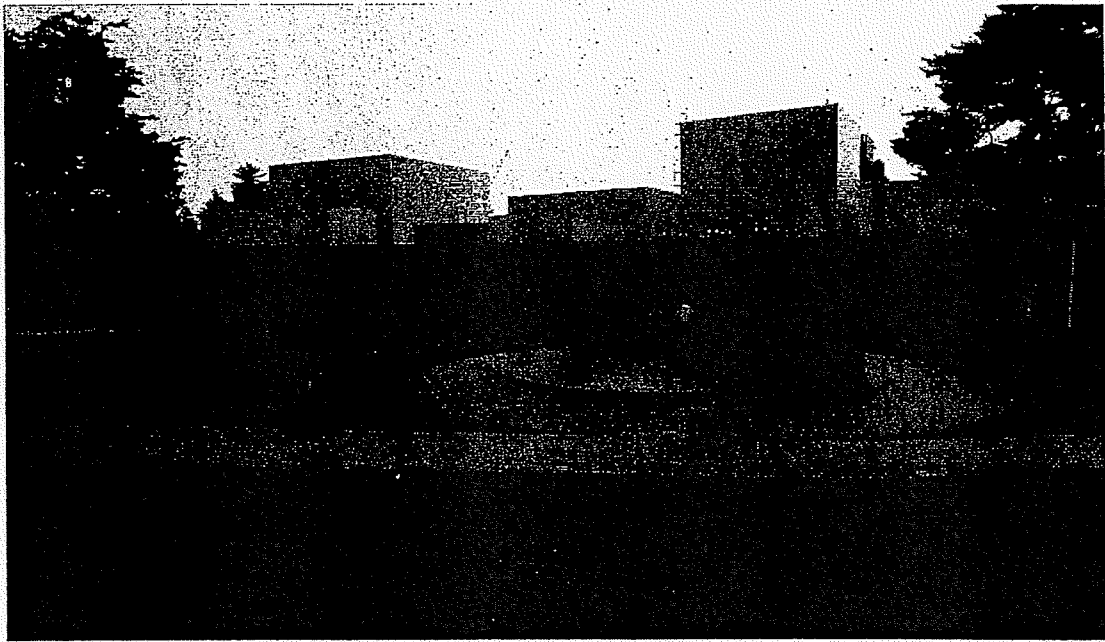
金沢は、歴史と伝統を尊重したまちづくりを推進してきました。新たに現代美術館を設置するよりは、伝統にこだわるべきだとの意見も多くありました。しかし、伝統とは、単に過去の形式を踏襲するものではなく、「革新の営み」により、新たな価値を創造するものとし、平成 7 年より計画が始まり平成 16 年 10 月にオープンへと繋げました。

金沢城公園、兼六園に隣接し中心商業地に近く、まちと共に成長し「新しい文化の創造」と「新たなまちの賑わいの創出」を方針としました。4つのミッションとして ①世界の「現在」とともに生きる美術館。 ②まちに活き、市民とつくる、参画交流型の美術館。 ③地域の伝統を未来につなげ、世界に開く美術館。 ④子供たちとともに、成長する美術館。を掲げています。

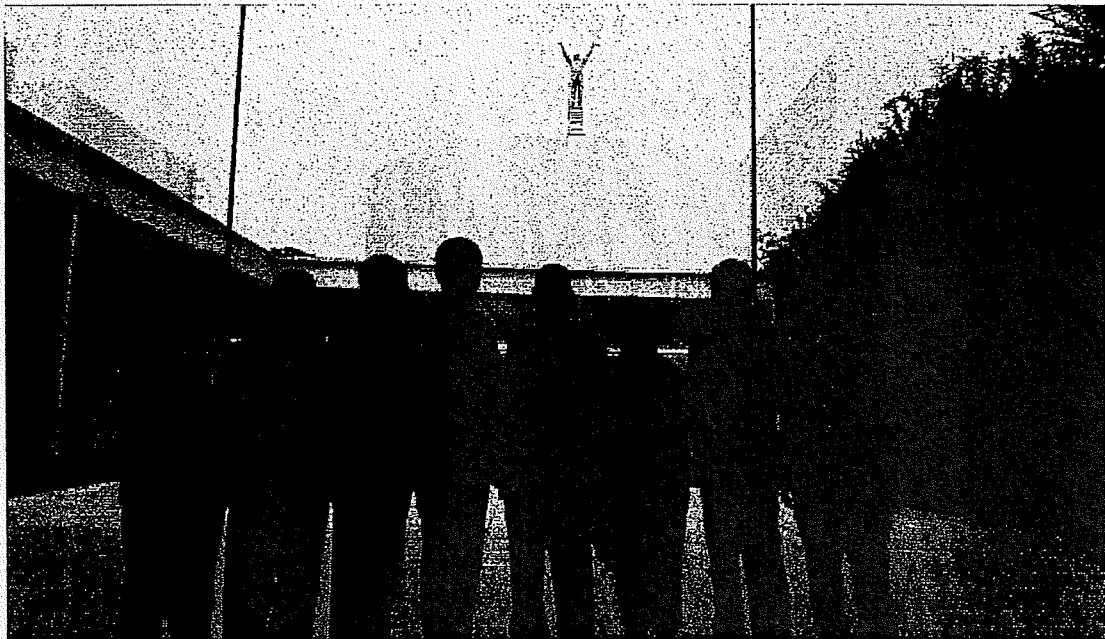
妹島知世・西沢立衛/SANAA の設計で円形の建築物が出来上がりました。(直径 11.3m)。高さは 15m、外周 350m。外側 360度の壁面ガラス 122枚 (厚さ 4Cm のペアガラス) に覆われています。建物の特徴として入り口が 4ヶ所あり (どこからでも自由に入出りできる) ます。市民に公園のような感覚で使ってほしいとの考え (表と裏がないアートサークル・正面のない美術館) で

す。そして、入館料がいないフリーゾーンの設置が挙げられます。観光スポットとして全国的に有名になったものの、市民目線を持った美術館である様です。

円形の建造物（手前の作品でなく、奥の建造物）



中庭



作品の一例



先程、方針として「新たなまちの賑わいの創出」と書きましたが、北陸新幹線開通などの影響から、現在来場者の約7割が県外からの来場者であり、観光客の増加（29年度は約237万人）により、列を造る店（飲食店）が目に見えて増えているそうです。以前は駅よりの繁華街が街の中心だったが、今ではそ

れが兼六園まで広がってきているとのこと。

21世紀美術館はこの人の流れを街の活性化に結びつけるため。①周辺商店街との連携として「アート de まちあるき」。②ミュージアム・グッズの開発「オリジナル製品の企画・制作・販売等」。③美術工芸大学・卯辰山工芸工房との連携・卒業作品展の開催などおこなっています。

自主事業としては、①展覧会開催事業「海外作家事業等の特別展、コレクション展」など。②教育普及・生涯学習基盤整備事業「ミュージアム・クルーズや中学生まるびいアートスクールプロジェクト」等。③地域文化活性化事業「音楽、パフォーミングアーツ、映像、講演など。その他としてARTS PLANETやオープンまるびいを展開しています。

貸館事業として、①展覧会や作品の創作活動をおこなっている市民等の発表の場「市民ギャラリーA室とB室、どちらの部屋も729㎡。②音楽、演劇などの公演、ワークショップ、映画上映、文化芸術に関する後援会で使用、156席一室。③加賀藩前田家ゆかりの茶室を移築等二部屋あるそうです。

十和田市では十和田市現代美術館の定義を、「芸術文化の持つ創造性及び多様性を広く市民に紹介するとともに、市民の芸術文化活動への支援及び参画の場を提供することにより、新たな文化の創造、様々な交流を通じたまちの賑わいの創出及び魅力あふれるまちづくりに寄与するため、現代美術館を設置する」とあります。十和田市現代美術館は市民との交流を深め連携をし、活動しています。魅力ある十和田、住みやすい十和田を目指すため、人と人を繋ぐハブとしての役割を現代美術館は担っています。その重要な立ち位置、価値観を共有するべく、今以上、より多くの場をつくりあげなければならないと感じました。美術館スタッフの方々との連携を蜜にしていきたいと思います。

十和田市議会・自民公明クラブ

岐阜市行政視察報告書

氣田 量子

日時 平成30年 6月28日(水) 13:30~

場所 温泉博覧会実行委員会

・体験プログラムの取り組み状況

★NPO 法人 ORGAN 事業

“岐阜と長良川に愛と誇りをもって暮らす人を増やす”

活かしきれてない長良川流域の生活価値・商業価値・観光価値の最大化を目指し、流域の多様な主体とともに観光まちづくり事業に取り組んでいます。

【代表的な事業】

長良川おんぱく (長良川流域体験プログラム見本市)

長良川デパート (長良川流域の産品と物語の販売・商品開発)

長良川 STORY (長良川流域の暮らしを伝えるブログサイト)

移住促進 (岐阜県全域の移住促進体験プログラム予約)

ORGAN キモノ (川原町でのアンティーク着物レンタル)

旅行体験商品の造成

★長良川おんぱくを通してやりたかったこと

平成20年8月「明日の宝もの」として認定を受けた川原町界隈は、まちづくり会による景観整備や、飲食業などの出店が徐々に進んでいるものの、宿泊・滞在に繋がる事業展開には至っていない状況である。

住んでいる人、商う人が地域外から来た人とともに地域の宝を発見し、「長良川ブランド」を発信する「観光まちづくりプラットフォーム」へ、地域で連携して実行チームを作る、「長良川が育んだまち」というストーリーを共有していく。

★長良川 DMO の戦略、長良川流域を周遊させ、旅行消費額を増やす

ファン獲得プロセス

- ② 新規顧客の獲得
- ② リピーター顧客の獲得
- ③ 常連客（ファン化した顧客）の獲得
- ④ 信者化した顧客からの新規顧客誘客

★2018年 NPO 法人 ORGAN 内に旅行会社部門を設立

周遊促進と高付加価値化を目指す旅行商品をそれぞれ造成し、販売

する主体として長良川 DMO 内に部門を設立

感想として、1人のよそ者の若者が客観的に長良川のいい所を見つけ、それをマーケティングしている。地元の人たちが気づかないことをプレゼンして集客につなげている。たった一人の若者に人が集まり今がある。素晴らしい若者です。

どこでも、成功している事業には一人の熱い人がいればなしえるのだなあと感じました。十和田市の DMO は誰が一人の若者になるのだろうか。期待が膨らみます。

研 修 費

(その3)

政務活動報告書

会派名	自民公明クラブ			
活動議員名(取扱議員名)				
織川 貴司	小川 洋平	石橋 義雄		
堰野端 展雄	斉藤 重美	氣田 量子		
区 分			合計金額	
1 調査研究費	2 研修費	3 広報費		4 広聴費
5 要請・陳情活動費	6 会議費	7 資料作成費	8 資料購入費	162,000 円
9 人件費	10 事務所費	※該当する区分に○印		
期間 (年月日)	平成30年7月17日 ～ 7月18日 (1泊2日)			
支出目的 (支出理由)	7月17日 平川市 ・株式会社津軽バイオマスエナジー「木質バイオマス発電事業について」 ・津軽バイオチップ株式会社「木質バイオマスチップ生産の状況について」 7月18日 弘前市 ・「駅前こどもの広場」における木育の取り組みについて			
用務先 (支払先)	平川市、弘前市			
内容及び成果	別紙 視察報告書のとおり			

※領収書及び料金内訳書等の写しは裏面へ貼り付けしてください。

森林・林業・林産業活性化促進調査視察研修報告書

平成30年7月17・18日

17日は平川市の(株)津軽バイオマスエナジー様を訪問して、生物資源を利用して電力を生み出すバイオマス発電システムについて視察研修して参りました。

木質バイオマス発電とは、エネルギーや物質に再生が可能な、動植物から生まれた有機性の資源(化石燃料は除く)のことを意味します。そのなかで、木材からなるものを「木質バイオマス」と呼びます。

森林から発生する大量の間伐材や、りんごの栽培において発生する剪定枝をチップに加工したものを燃料とし、燃焼した熱で蒸気を作り、その蒸気力でタービンを回して電気を作ることを「木質バイオマス」といいます。

エネルギーの地産地消と地域社会への貢献については、森林管理ではつせいで発生する間伐材や、りんごの栽培において発生する剪定枝等の地域資源を利用して電力を生み出し、地元の公共施設等に電力を供給している。また、それらの地域の未利用資源の収集・運搬による地域の活性化、バイオマスエネルギー施設や関連設備の管理運営により新しい雇用が発生し、地域社会に貢献している。

資源循環型エネルギーについて、木質バイオマス(木質チップ)は植物から生成した有機物です。それを燃焼させることにより排出される二酸化炭素は、バイオマス発電の燃料となる樹木の成長過程で光合成により大気中から吸収されます。また、発電の際に発生する熱は農作物の生産に利用されます。バイオマス発電で作られるエネルギーは、資源循環型、再生可能といえます。

バイオマス発電の全体スキームとしては、豊かな森林から発生する大量の間伐材とりんご栽培において発生する剪定枝を木質チップに製造し、バイオマス発電に供給して売電先の東北電力(株)・新電力会社を通して地元公共施設等に電力を供給する。

18日は弘前市駅前こどもの広場について視察研修してまいりました。

施設の概要は

プレイルーム：易しい温かみのある木製玩具を中心とした遊具をそろえ、子育て家庭が気軽にかつ自由に利用できる交流の場として、開設時間内常時開放する。

親子カフェ ; プレイルームで遊ぶ子供の姿を見守りながら、親同士の交流を図りつつ、ゆっくりとくつろぐことができる空間を提供する。

子育て支援情報コーナー ; 市の子育て支援情報だけでなく、関係機関、NPO、子育てサークル等の情報を提供する。

授乳室 ; 子育て支援センター利用者のために、一度にたくさんの方が利用できる授乳室を設置。

親子交流・研修室 ; 各種育児講座、研修会、サークル活動支援等を実施。

相談 ; 子育てに関する相談・援助を実施

託児室 ; 一時預かり事業を実施する。※500円/1時間で3時間まで利用可能

感想としては最大限自然エネルギーを利用しているので素晴らしいと思いました。十和田市でも夏場は野菜用ビニールハウスでも50度くらいまで熱くなります。また湿度も庫外より、約1ヶ月で木材の含有率を10%前後まで下げ、住宅用建材として出荷されたそうです。

需要と供給のバランスだと思いました。

十和田市には材料が沢山ありますが、木材の乾燥が低コストに繋がり新築する人たちに安価に提供できれば素晴らしいことだと思いました。

林活議員連盟調査視察報告書

氣田 量子

日時 平成30年7月17日～18日

視察先 (株)津軽バイオマスエナジー・

津軽バイオチップ (株)

弘前市ヒロロ

・木質バイオマス発電事業について

なぜ発電事業をすることになった？

地球温暖化対策の必要性は、人々が油や石炭をいっぱい使いCO2が増えて、気温や海の水温が上がり、台風や大雨の災害が増えてきたためである。生活が油に頼りすぎで、将来を考えてエネルギーの転換が必要と考えられる。

二酸化炭素を出さずに発電できないか？

2012年、国は再生可能エネルギー固定価格買取制度を設置しました。電力会社が定額で20年間電気を買って取る制度があり、バイオマス(間伐材・一般木質)・太陽光・風力はCO2を増やさない方法である。

家や学校を建てる時、外国の木材が普及し、さらに金属やコンクリ

ートを使う時代になり、林業が低迷している。家庭の燃料が山の木を使わない時代でもある。また、リンゴの木の剪定枝・老廃木や林地の残材（間伐材）が低利用の状況です。

地方に企業が来てくれないので、工場を建てて職を増やせる木質バイオマス発電の事業化が決定した。

津軽バイオマスエナジー平川発電所の規模

- 燃料チップは木の水分により210～240トン/日
- 津軽の大部分の山から間伐した樹木を集めている
- 年330日24時間発電で14,000世帯分を発電している
- 東北電力や地域新電力会社に売電
- チップ会社と発電所47人、造林会社20人が新規雇用
- 発電所建設費：29億円（チップ会社は8億円）

津軽地域では積雪荷重と温度管理の問題から農業ハウスの経営がコンである。発電所の発熱用タービンで使用した蒸気の排熱をハウス内に送り込み、少額の光熱費で暖房できる。そして、アイメックフィルム農法によるトマト栽培を行い収穫時期は5月中旬～12月末まで長期間収穫しています。

感想として、十和田市の広域地域でもこのような発電所を作るこ

とが出来るとは思いません、是非作るべき施設ではないかと思いましたが、放置されている間伐材等を再利用して発電し売電する、そして、同じように農業用ハウスに排熱が活かされる仕組みは素晴らしいです。

・ヒロロ「駅前こどもの広場」における木育の取り組みについて

弘前市駅前商業施設5階建ての「ヒロロ」の3回フロアに子育ての機能を導入し、弘前市の子育てのシンボルとなる拠点施設として整備している。

施設の概要（子育て支援センター）

プレイルーム・親子カフェ・子育て支援情報コーナー・授乳室・親子交流・研修室・相談窓口・託児室

特にプレイルームでは、やさしい温かみのある木製玩具を中心とした遊具をそろっております。

8時30分～21時まで開設、年中無休、月7回程度「木育インストラクター」を配置するなど素晴らしい環境です。冬の遊び場としても、広さは十分ですし、開放感ある館内はストレスなく親子で過ごせる自由な施設です。

感想として、商業施設内なので、買い物も出来、フロア内に市役

所支所もあり、用事が一度に済ませることが出来る子育て世代にとってニーズのある施設だと思いました。特に木の玩具や遊具は木のふれあい、木に学び、木と生きる取り組みは環境にやさしい木育です。木材に対する親しみや木の文化への理解が深まり、木の良さやその利用の意義を学ぶきっかけとなるとと思います。一番は、何と言っても開放的な広いスペース、十和田にもあったらいいのになあと羨ましく思いました。